

令和 4 年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立清江小学校

令和 5 年 2 月

大阪市立清江小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 日々の子どもたちのようすは、明るくのびのびと学校生活を送っている。
- 自尊感情を高め、学校生活全般の中や体験活動を通して自己肯定感を高めることができる取組を工夫していく。
- 話し合う活動を、積極的に取り入れる等児童にとってわかりやすい授業を実践することができたが、学習内容の基礎基本の定着に課題をもつ児童がおり、学力の向上を図るために、きめ細かい指導を継続していく必要がある。
- 体力に関しては、指標を上回ることができなかつた。新型コロナウイルスの感染拡大長期蔓延が関与していると言わざるを得ないところもあるが、運動を苦手とする児童もいることから運動が苦手な児童を減らす取組を進めていく。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和 7 年度の学校アンケートにおいて、「学校は楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 90 % 以上にする。
- 令和 7 年度の学校アンケートにおいて、「友達を大切にしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 90 % 以上にする。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査で「自分にはよいところがある」の肯定的な回答を 80 % 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の学校アンケートにおいて、「授業はわかりやすい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 90 % 以上にする。
- 令和 7 年度の学校アンケートにおいて、「授業では、よく話し合ったり発表したりしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 80 % 以上にする。
- 令和 7 年度の学校アンケートにおいて、「健康な生活を心がけている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 80 % 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度の学校アンケートで、デジタルドリルを活用して「勉強が楽しくなった」と肯定的に回答する児童の割合を 80 % 以上にする。
- 令和 7 年度の学校アンケートで、「家で学習者用端末を使って学習をしている」と肯定的に回答する保護者の割合を 80 % 以上にする。
- 令和 7 年度の教員アンケートで、協働学習支援ツールを「積極的に活用した」と肯定的に回答する割合を 80 % 以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1（基準 2）を満たす教員の割合を 80 % 以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 令和4年度の学校アンケートにおいて、「学校は楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。
- 令和4年度の学校アンケートにおいて、「友達を大切にしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。
- 令和4年度の全国学力・学習状況調査で「自分にはよいところがある」の肯定的な回答を70%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を30%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント以上向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を40%以上にする。

学校園の年度目標

- 令和4年度の学校アンケートにおいて、「授業はわかりやすい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。
- 令和4年度の学校アンケートにおいて、「授業では、よく話し合ったり発表したりしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。
- 令和4年度の学校アンケートにおいて、「健康な生活を心がけている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小学校）

【ICTの活用に関する目標】

- ・デジタル教材を活用した学習を週1回実施する。
- ・学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。
- ・協働学習支援ツールを用いた学習を週1回実施する。

【教職員の働き方改革に関する目標】

- ・ゆとりの日を週に1回設定・実施する。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（基準2）を満たす教員の割合を75%以上にする。

学校園の年度目標

- 令和4年度の学校アンケートで、デジタルドリルを活用して「勉強が楽しくなった」と肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- 令和4年度の学校アンケートで、「家で学習者用端末を使って学習をしている」と肯定的に回答する保護者の割合を75%以上にする。
- 令和4年度の教員アンケートで、協働学習支援ツールを「積極的に活用した」と肯定的に回答する割合を75%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（基準2）を満たす教員の割合を75%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ・全市共通目標については、一部上回ることができなかったが、学校の年度目標「学校は楽しい」「友達を大切にしている」「自分にはよいところがある」については、全ての項目で目標の数値を上回ることができた。これらは、新型コロナウィルス感染防止対策をしながら異学年交流や体験的な活動を可能な限り実施してきた成果だと思われる。今後、学校全体できまりを守っていくよう取り組みを工夫していく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・全市共通目標・学校の年度目標ともに全ての項目で目標の数値を上回ることができた。学校の年度目標「授業はわかりやすい」については、肯定的回答が90%以上であり算数科の習熟度別学習等で子どもの実態に合わせた指導の結果、基礎基本の定着を図ることができた。また、「健康な生活を心がけている」に関しては、なわとびカードや休み時間行事の活用により運動への意欲を高めることにつながっている。今後も学力・体力の向上に向けて引き続き取り組みを工夫していく。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ICTの活用に関しては、デジタル教材の活用により「勉強が楽しくなった」の肯定的回答は目標値を上回ることができたが、その他の項目では課題が見られた。教職員の働き方改革に関しては、業務内容の精選等の課題が見られたが、教員の勤務時間に関する基準2は目標値を上回ることができた。

大阪市立清江小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和4年度の学校アンケートにおいて、「学校は楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。 ○令和4年度の学校アンケートにおいて、「友達を大切にしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。 ○全国学力・学習状況調査で「自分にはよいところがある」の肯定的な回答を70%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【1、安全・安心な教育環境の充実】</p> <p>みんなが楽しく学校生活が送れるよう、学校のきまりを理解し、守ることができる児童を育てる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活ふりかえりカード」の取組を年間3回行う。 ・児童会活動で、「学校のきまり」に関する啓発や、児童による点検活動等の主体的な行動ができるように計画する。 	B
<p>取組内容②【2、豊かな心の育成】</p> <p>異学年との交流を図り、協力して仲良く活動できる取組を行う。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たてわり班での取組を年間3回行う。 	B
<p>取組内容③【2、豊かな心の育成】</p> <p>・体験活動や人や事との出会いの場を多く設け、豊かな心を育む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーを招いての授業や出前授業を各学年1回する。 ・遠足や社会見学、宿泊行事を実施し、体験的な活動を取り入れる。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

○学校の年度目標については、全ての項目において目標の数値を上回ることができた。

【取組内容】について

- ① 生活ふりかえりカードやあいさつ運動、あるこう週間等で、「学校のきまり」についての意識は高めることができたが、意識することがそのときだけになっている児童もある。
- ② 児童集会を中心に、全校オリエンテーリング等で、異学年との交流を深めることができた。
- ③ 各学年とも、ゲストティーチャーを招いての授業や出前授業を実施することができた。また、遠足や社会見学、宿泊行事を実施し、体験的な活動を計画通り実施することができた。

次年度への改善点

- ① 学校全体できまりを守っていけるように、全教職員が同じ目線で継続的な指導をしていく。
- ② 清江まつりの実施等も含め、今後も異学年との交流をする場をつくっていく。
- ③ 各学年の実態に応じ、体験活動等の計画を立て実施していく。

(様式 2)

大阪市立清江小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 30 %以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント以上向上させる。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70 %以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 40 %以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和 4 年度の学校アンケートにおいて、「授業はわかりやすい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 80 %以上にする。 ○令和 4 年度の学校アンケートにおいて、「授業では、よく話し合ったり発表したりしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 70 %以上にする。 ○令和 4 年度の学校アンケートにおいて、「健康な生活を心がけている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 75 %以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>習熟度別授業や個に応じた指導等、指導方の工夫により、基礎基本の定着を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、レディネスや復習問題等で、子どもの実態を把握し、個に応じた指導を行う。 <p>取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>授業の中で「話し合う活動」等を取り入れ、児童が主体的・対話的で深い学びができると思えるように指導方法の研究を行う。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員が公開授業を計画的に行い、指導力を向上させる。 	B

取組内容③【5、健やかな体の育成】

子どもの体力づくりや運動能力向上のための取組を充実させる。

指標

- ・体力づくり週間を設定し、児童の運動への意欲を高める。
- ・運動能力向上のための運動について研修を行う。
(反復横とび、立ち幅跳び、50m走等)

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- 全市共通の目標については、各項目とも達成することができた。
- 学校園の目標についても、各項目とも達成することができた。

【取組内容】について

- ①算数科においては、レディネステストを実施し習熟度別学習を行ったり、少人数学習を行ったりする等、個に応じた指導をすることができた。また、ヒントカードや演習プリントを作成し、学習支援を行うことで基礎基本の定着を図ることができるよう学習を進めることができた。
- ②計画に基づき授業研究を行い、児童が主体的・対話的で深い学びができるよう講師先生を招聘し、研究を深めていくことができた。
- ③なわとびカードの活動や休み時間行事を実施し、児童の運動への意欲を高めていく取り組みを行うことができた。

次年度への改善点

- ①次年度も引き続き個に応じた指導等を継続して取り組むとともに、タブレット学習等を活用し、反復して学習する機会を増やし、基礎基本の定着を図っていく。
- ②児童が主体的・対話的で深い学びができる指導方法を今後も継続して研究していく。
- ③子どもの体力づくりや運動能力向上のために、体力の向上につながる研修を行ったり、体力づくり週間等を設けたり、様々な取り組みを計画し実施していくようにしていく。

(様式 2)

大阪市立清江小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>【ICT の活用に関する目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材を活用した学習を週 1 回実施する。 ・学習者用端末を活用した家庭学習を週 1 回実施する。 ・協働学習支援ツールを用いた学習を週 1 回実施する。 <p>【教職員の働き方改革に関する目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりの日を週に 1 回設定・実施する。 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1（基準 2）を満たす教員の割合を 75 %以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和 4 年度の学校アンケートで、デジタルドリルを活用して「勉強が楽しくなった」と肯定的に回答する児童の割合を 75 %以上にする。 ○令和 4 年度の学校アンケートで、「家で学習者用端末を使って学習をしている」と肯定的に回答する保護者の割合を 75 %以上にする。 ○令和 4 年度の教員アンケートで、協働学習支援ツールを「積極的に活用した」と肯定的に回答する割合を 75 %以上にする。 ○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1（基準 2）を満たす教員の割合を 75 %以上にする。 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 デジタルドリル「navima」をふりかえり学習等で週 1 回活用する。	C
指標 ・教科の学習の後、「navima」を使い、学習内容の定着を図る。	
取組内容②【6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 学習者用端末を活用した家庭学習を週 1 回実施する。	C
指標 ・家庭学習で「navima」等を使い、個に応じた学習を家庭で行う。	
取組内容③【6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 協働学習支援ツール「SKYMENU Cloud」を取り入れた学習を週 1 回実施する。	B
指標 ・「発表ノート」等の機能を使い、学習者用端末での学習に慣れ親しむようにする。	

取組内容④【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

ゆとりの日を週に1回設定・実施する。

B

指標

・ゆとりの日は、定時に帰れるよう教職員相互に意識し声掛けし合うようにする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

○2つの項目では目標値を超えていたが、「家で学習者用家庭端末を使って学習をしている」と「教員アンケートの協働学習支援ツールを「積極的に活用した」」の回答については目標値を大きく下回った。

【取組内容】について

- ①隙間時間（給食後や朝の会の後、テストが早く終わったとき）等を活用してデジタルドリル「navima」に取り組むことができた。しかし、活用頻度については学年や児童の状況によるところの差が大きい。
- ②学習者用端末の充電コードを保管庫から取り外すことが容易ではないため、持ち帰りのハンドルが高く、家庭に持ち帰らせるためのハード面の整備ができていない。そのため、家庭での持ち帰りが週1回ではなく長期で休む児童のみの持ち帰りに限定された。
- ③協働学習支援ツール「SKYMENU Cloud」について、少しずつ使用頻度は上がっている。特に算数科・生活科・振り返りの学習等で活用していくことができた。
- ④ゆとりの日の設定を行い、定時に帰れるよう意識はしているが、教員によって帰れる時と帰れないときの差がある。個々人の努力により、学校全体としては教員の勤務時間に関する基準を満たすことはできているが、教員一人一人の時間外業務の負担を改善していくために、今後も学校園における働き方改革を推進していく必要がある。

次年度への改善点

- ①学年や学級、児童のデジタルドリル「navima」の使用頻度の差を埋めていくことが必要。そのために学校全体でより計画的な取り組みを行うように考えていく必要がある。
- ②学習者用端末を活用した家庭学習を行うためには、持ち帰り用の充電コード等の環境整備をしていく必要がある。また、学習者用端末を持ち帰ってのICTの活用方法について考える必要がある。
- ③協働学習支援ツール「SKYMENU Cloud」の効果的な活用方法を広げていくために校内研修等を増やしていく。
- ④学校園における働き方改革を推進していくためには学校行事の見直し、校務分掌の分散等業務の精選が必要である。